



基本領域 形成外科専門研修

連携

- 京都大学形成外科専門研修プログラム
- 兵庫県立尼崎総合医療センター形成外科研修プログラム

1. 形成外科の理念・特色

当科は但馬丹後地域で唯一常勤医を有し、入院治療が可能な形成外科診療施設である。この地域における最終施設であり、あらゆる疾患に対応を行っている。疾患だけでなく、患者の背景にも着目し、その患者にとって望ましい治療を検討し、一例一例丁寧に診療を行うことを心がけている。また地方にあっても時代遅れの治療、独善的な治療に陥らないよう学会や研究会に積極的に参加し、当科であまり経験がない手術や難渋している症例には外部の専門医へのコンサルトや、手術指導のための招聘を行い、技量の向上に努めている。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

豊富な経験と知識を持ち、かつ技量向上のための研鑽を怠らず、謙虚な姿勢を持って丁寧に診療を行う医師。

イ. 経験できる診療、技術

基本的な創傷処置、形成外科的縫合法、局所皮弁や植皮による皮膚欠損の再建、有茎皮弁や遊離皮弁による皮膚軟部組織欠損の再建、顕微鏡下神経血管吻合手技、唇裂・口蓋裂に対する手術治療と音声言語訓練等の術後治療、体表面の先天性疾患に対する手術、新鮮熱傷の管理と治療、瘢痕拘縮・ケロイドに対する保存的治療と手術、皮膚皮下の良性腫瘍、軟部腫瘍の摘出手術とその再建、皮膚軟部悪性腫瘍の根治的切除と再建、顔面骨骨折の手術と術後治療、頭頸部悪性腫瘍切除後の再建、乳癌切除後の乳房再建、眼瞼下垂や睫毛内反症等変性疾患に対する手術、褥瘡等難治性潰瘍に対する保存的治療と手術、皮膚色素性疾患に対するレーザー治療(ルビーレーザー、v-beam)等。

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
午前	外来診療 外来小手術、 レーザー治療、 病棟回診	外来診療 入院患者手術、 外来手術、 病棟回診	外来診療 外来小手術、 レーザー治療、 病棟回診	外来診療 外来小手術、 レーザー治療、 病棟回診	外来診療 入院患者手術、 外来手術、 病棟回診	病棟患者回診 (当番医のみ)
午後	外来小手術、 レーザー治療 手術患者 カンファレンス、 勉強会、 説明会等	外来診療 入院患者手術、 外来手術 入院患者 カンファレンス	外来診療 外来小手術、 レーザー治療 入院患者 カンファレンス	外来小手術、 レーザー治療 入院患者 カンファレンス	入院患者手術、 外来手術 週末処置患者 申し送り	

※病棟業務の習得具合により、外来診療も行っていく。

※※時間外や休日の呼び出し義務はないが、必要に応じて手術等緊急の対応を行うことがある。

4. 指導医・スタッフ

院長補佐 兼 部長	よしもと ゆうじ 義本 裕次
大学卒業年	1989年卒
専門	形成外科一般
認定	緩和ケア指導者研修修了、日本形成外科学会専門医・皮膚腫瘍外科分野指導医・小児形成外科分野指導医・領域指導医、日本頭蓋顎顔面外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医、日本手外科学会手外科専門医・指導医、日本口蓋唇裂学会口唇裂・口蓋裂認定師(形成外科分野)、日本乳房オンコプラスチックサージャー学会乳房再建責任医師、京都大学臨床教授、臨床研修指導医

医員	ながぶち みずき 永瀬 瑞生
大学卒業年	2019年卒
専門	形成外科一般、顔面骨骨折、手外科

医員	おか しゅんご 岡 俊吾
大学卒業年	2019年卒
専門	形成外科一般

5. 診療設備

Q スイッチアレキサンドライトレーザー キャンデラ ALEX LAZR

皮膚良性血管病変治療用レーザー キャンデラ Vbeam

近赤外線治療器 東京医研 スーパーライザーHA550S

6. 診療実績

手術実績(2023年1月～12月)

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	157	1	158
腰麻・伝達麻酔での手技数	51	6	57
局所麻酔・その他での手技数	77	692	769

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	45	10	1	0	4	103	163
先天異常	22	2	3	0	0	17	44
腫瘍	65	20	7	1	2	357	452
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	4	1	0	0	0	12	17
難治性潰瘍	9	13	15	0	0	17	54
炎症・変性疾患	7	5	14	0	0	79	105
美容(手術)	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	37	0	0	35	75
Extraレーザー治療	2	0	0	0	0	72	74
合計	157	51	77	1	6	692	984

7. 学会認定施設

日本乳房オンコプラスチックサージェリー学会エキスパンダー/インプラント実施施設

先輩医師の声

専攻医1年目を京都大学病院で過ごし、専攻医2年目から公立豊岡病院に赴任しました。大学の医局人事で豊岡病院を含め3つの転勤先の選択肢があったのですが、豊岡病院の研修医を経て大学の形成外科に来ていた同僚から豊岡病院を勧められ、豊岡病院への転勤を希望しました。その同僚から豊岡病院の魅力を聞いていましたが、赴任から1年半を過ぎた専攻医生活は期待通りのものでした。

豊岡病院形成外科の特徴は症例の豊富さと考える時間のバランス、そして勤務形態にあると思っています。

近隣には形成外科がなく、兵庫県北部はもちろん、京都府北部、一部は鳥取県東部までの症例を一手に引き受けています。僕自身は専門医試験の10症例10項目を1年半で完成できました。かといって日々忙しいというわけではなく、むしろ勤務時間中にゆっくり考える時間があるという点で非常にバランスが良いと思っています。自分が診た症例は自分で執刀しなければならないというプレッシャーはありますが、その分質の高い勉強、経験ができます。

もう一つの特徴である勤務形態ですが、救急科の守備範囲が広いことが挙げられます。外傷、熱傷の初期診療の大部分を救急科が引き受けてくれて、平日日中まで時間を稼いでくれるので、時間外に呼び出されることはあまりないというのが実感です。メリハリのついた勤務ができるでしょう。

そんな豊岡病院ですが、立地について言及しなければなりません。自家用車は必須と言ってよく、都会暮らしを望む先生には正直なところ不向きだと思います。僕自身は釣り、登山、自転車などアウトドア派なので控えめに言って最高です。鳥取市～豊岡～福知山市(車で約1時間圏内)が僕のよくいく行動範囲ですが、この範囲で普通の生活が済ませられればベストです。たまには2時間かけて大阪や神戸まで出るのもよいでしょう。

仕事、生活、環境に恵まれた豊岡病院、考えてみてはいかがでしょうか。

清水 健司 医師